

2026 年度（令和 8 年度）入学者選抜試験問題

一般選抜（A 日程）

1 月 25 日 実施

国 語

＊ 下記の＜注意事項＞をよく読み、監督者の指示を待ちなさい。

＜注意事項＞

－開始前－

1. 試験時間は 60 分です。監督者の＜開始＞の指示があるまで、この冊子を開けない。
2. 解答用紙には解答欄のほかに下記の 2 つの記入欄がある。その説明と解答用紙の「記入方法」を読み、2 項目に記入またはマークする。
 - ・氏名及びフリガナ
 - ・番号 上段に受験番号を記し、下段にマークする。
※年月日及び右横の空白枠は記入しなくてもよい。
3. 解答用紙に汚れがある場合は、挙手で監督者に知らせる。
4. この冊子表紙の受験番号欄に受験番号を記入する。この冊子は試験終了後に回収する。

－開始後－

1. この問題冊子の問題部分は12ページです。開始後確認してページの落丁、乱丁、印刷不鮮明などがある場合は、挙手で監督者に知らせる。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄へマークによって行う。
例えば、解答番号 3 と表示のある問いに対して ② と答える場合は、解答番号 3 の解答記入欄 ② をマークする。

解答 番号	解 答 記 入 欄
3	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

3. 質問などがある場合は、挙手で監督者に知らせる。
4. 中途退室は認められない。
5. 試験終了の合図（監督者の指示）と同時に筆記用具を置く。解答用紙は表向きにして問題冊子の右において、回収を待つ。次の指示があるまで席を立たない。

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

第一問

次の問いの語句の意味としてもっとも適切なものを、後の①～③の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

〔問一〕

是々非々

1

- ① 賛成と反対など、相対する主張が拮抗していること。
- ② 人生における多様な岐路は、それぞれ個人が自己責任で選択していること。
- ③ 公正な立場から、良いことは良い、悪いことは悪いと判断すること。

〔問二〕

水魚の交わり

2

- ① 無用な干渉をしない、自由な間柄のこと。
- ② お互いの利害を共有する間柄のこと。
- ③ 親しく信頼しあう間柄のこと。

〔問三〕

思い半ばに過ぎる

3

- ① あれやこれやと思い悩むこと。
- ② 考えてみると思い当たる事が多く、十分に推察できること。
- ③ つらかったことや悲しかったことが思い浮かぶこと。

〔問四〕

立て板に水

4

- ① すらすらと話すこと。
- ② 他の意見に耳を貸さないこと。
- ③ 相手に何も通じないこと。

〔問五〕

語るに落ちる

5

- ① 説明を尽くすことで、やっと許してもらえること。
- ② 話すべきではない事柄をうっかり言ってしまうこと。
- ③ 他人の意向にみさかいなく引き込まれてしまうこと。

〔問六〕

万物流転

6

- ① この世のありとあらゆるものは、絶えず変化し続けるという考え。
- ② すべてのものが、在るべきものとして創造されているという考え。
- ③ 命あるものは、形を変えて再び命を授けられるという考え。

〔問七〕

ひつじよう
必定

7

- ① 約束や契約がなくても、当然に守る義務があること。
- ② 生まれもった運命に抗わないこと。
- ③ 次に生じる事態が必ずそうになると、分かり切っていること。

〔問八〕

さいおう
塞翁が馬

8

- ① 人の上に立つものには、自ずと良い部下が従うというたとえ。
- ② 人生の幸不幸は予測できないものだというたとえ。
- ③ 何の努力もせずに暮らしているものは、大切にしていたものを失っていくというたとえ。

〔問九〕 妄想

9

- ① 根拠のないことをむやみに想像すること。
- ② 願望が具現化するように強く思うこと。
- ③ 自分の主義、主張は正しいものであると信じ込むこと。

〔問十〕 リテラシー

10

- ① 大局的に物事を捉えて判断する思考のこと。
- ② 物事を過去の事象と比較検証して結論を導く弁証法のこと。
- ③ ある分野に関する知識やそれを活用する能力のこと。

第二問 次の問いに答えなさい。

〔問一〕 次の文について、日本語の表現として適切なものは①を、不適切な部分を含むものは②を選び番号をマークしなさい。

(1) この件に関しましては、すでにお聞き及びのことは存じますが、確認のためいま一度申し上げます。

11

(2) 次の連休は墓参りを兼ねて、祖母のところに伺うことにした。祖母の家は海を見下ろす高台にある。

12

(3) 暑い日が続いております。先生におかれましては、どうぞお体をご自愛くださいませ。

13

〔問二〕 次の①～⑤の熟語の組み合わせのうち、類義語の関係にないものを一つ選び番号をマークしなさい。

① 横領 ― 着服 ② 承継 ― 踏襲 ③ 諮問 ― 答申 ④ 懸念 ― 心配 ⑤ 快活 ― 活発

14

〔問三〕 次の①～⑤の下線部の漢字について、適切に使われているものを一つ選び番号をマークしなさい。

① 猛練習に堪える。 ② 保険を薦める。 ③ 始めが肝心。 ④ 予算内に収める。 ⑤ 利益の迫及。

15

第三問 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

これまで、ことばとアイデンティティの関係は、あらかじめ話し手には自分のアイデンティティがあつて、そのアイデンティティが言葉づかいにも自然にあらわれると理解されていた。謙虚な人はいいねいな言葉づかいをし、傲慢な人は「A」言葉づかいをする。ある人がいいねいな言葉づかいをするのは、その人が謙虚な人だからだと考えられた。つまり、「私たちは、すでにあるアイデンティティにもとづいて人との関わり方を決めている」と考えられていたのだ。

このように、アイデンティティをその人にあらかじめ備わっている属性のようにとらえて、人はそれぞれの属性にもとづいてコミュニケーションをするという考え方を「本質主義」と呼ぶ。

「B」、アイデンティティのうちで「ジェンダー」に関わる側面を本質主義にもとづいて表現すると、人は〈女らしさ〉や〈男らしさ〉を「持っている」、その〈女らしさ〉や〈男らしさ〉にもとづいて、ことばを使うと理解される(ちなみに、本書では、「性別」ではなく「ジェンダー」を用いる。性別とは「C」な性の違いを指し、ジェンダーは、社会文化的な女らしさや男らしさを指す)。

…【①】

しかし、このような考え方では説明のつかないことがたくさん出てきてしまった。もっとも大きな問題は、私たちはだれでも、それぞれの状況に応じてさまざまな異なる言葉づかいをしていることがはつきりしてきた点である。同じ人でも、家庭での言葉づかいと学校での言葉づかいは異なる。同じ学校で話していても、話す相手や、場所、目的によつて異なる。さらに、同じ人でも子どもの時と大人になってからは言葉づかいが変わる。同じ〈男らしさ〉を持っている人でも、その言葉づかいはそれぞれに異なる。むしろ、いつでも、だれとでも、同じ言葉づかいで話している方が不自然に感じられるのではないだろうか。もし、私たちが、すでにあるアイデンティティにもとづいて人との関わり方を決めているのだとしたら、このように言葉づかいが多様に変化することを説明できない。

そこで提案されたのが、アイデンティティをコミュニケーションの原因ではなく結果ととらえる考え方である。私たちは、あらかじめ備わっている〈日本人・男・中学生〉という属性にもとづいて言葉を選んでいいるのではなく、人とのコミュニケーションによつて自分のアイデンティティをつくり上げている。「私は日本人だ」「男として恥ずかしい」「もう中学生になった」などと言う行為が、その人をその時〈日本人〉〈男〉〈中学生〉として表現すると考えるのである。

アイデンティティを、その人が「持っている」属性とみなすのではなく、人と関わり合うことでつくりあげる、つまり、「アイデンティティする」行為の「D」だとみなすのである。このように、アイデンティティを、他の人とことばを使って関わり合うことでつくり続けるものだともみなす考え方を「構築主義」と呼ぶ。

…②

構築主義によれば、人はあらかじめ「持っている」アイデンティティを表現しているのではなく、他の人と関わり合う中で、その時々に応じて、さまざまなアイデンティティを持った人間として立ち現れるのだ。

「構築主義」という考え方の特徴は、何よりも、私たちのアイデンティティは、他の人との関わり合いの中で表現されるものだと考える点だ。関わり合う相手は、人間でなくてもよい。ペットに話しかけるとときには、自分でもびつくりするぐらい優しい自分になっている時がある。

…③

しかし、ここまで読んできて、いくつかの疑問を持った読者がいると思う。

まず考えられる疑問は、他の人と関わり合うことで、その時々に応じてアイデンティティを表現するとしたら、人と関わり合う前の自分は空っぽなのかという問いだ。この、「自分は空っぽ」というのは、たいていの人の感覚とずれている。むしろ私たちは、自分の中には何か自分らしさがあるという感覚を持っているのではないか。

これに対して、構築主義を提案した人たちは、次のように説明する。私たちは、繰り返し習慣的に特定のアイデンティティを表現し続けることで、そのアイデンティティが自分の「カク」⁽¹⁾であるかのようなゲンソウ⁽²⁾を持つ。

そう言われてみると、私たちが日常的に関わり合う人たちは、結構、似たような人であることが多い。毎日、新しい出会いがある人もいるかもしれないが、たいていは、家族やクラスメート、学校の先生など、同じような顔触れなのではないだろうか。だとすると、私たちは、日常生活で関わる人に対して、かなり長い期間、繰り返し、同じような自分を表現していることになる。そして、それが「自分らしさ」を形成していると感じるようになっているとしても、不思議ではない。

哲学者のジュディス・バトラは、ジェンダーに関わるアイデンティティについて、「ジェンダーとは、身体をくりかえし「E」していくことであり、きわめて厳密な規制的枠組みのなかでくりかえされる一連の行為であって、その行為は、長い年月のあいだに凝固して、実体とか自然な存在という見せかけを生み出していく」と指摘している。

…④

つまり、女らしさや男らしさに関わるアイデンティティの側面も、身近な人との関わり合いの中で、長い間繰り返し表現していくことで、「自分の

女らしさ、あるいは、男らしさはこんな感じ」という感覚が確立していくというのだ。

もうひとつ考えられる疑問は、私たちは、その時々に応じて、さまざまなアイデンティティを持った人間として立ち現れるとしたら、自分のアイデンティティは複数あるのかという問いだ。これは、「アイデンティティ」をどのように理解するかという難しい問題をはらんでいる。しかし、アイデンティティをひとつに限る必要はないと考える人はいる。

…【⑤】

たとえば、作家の平野啓一郎は、『私とは何か』の中で、「個人」ではなく「分人」という考え方を提案している。この本によると、たったひとつの「本当の自分」など存在しない。むしろ、対人関係ごとに見せる複数の顔が、すべて「本当の自分」である。「分人」という考え方の素晴らしいところは、たとえ、Aさんとの関係で見せている自分は好きでなくても、Bさんとの関係で見せている自分を支えにしていけると示している点だ。学校でいじめられて苦しんでいる自分がすべてではなく、家に帰って家族から愛されている自分を認めることで生きていける。

このように、複数のアイデンティティを表現することは、後期近代の特徴だという人もいる。そう言われてみると、以前の日本企業は、終身コヨウ⁽³⁾が売りだった。一度就職すれば、退職するまで同じ会社で働く。自分のアイデンティティは、昇進などで変わるぐらいで、基本的には、会社の限られた人間関係にもとづいていた。

…【⑥】

ところが今は、ひとつの会社に就職しても、転職する人もいる。同じ会社で働く人も、正社員から派遣社員、嘱託やアルバイト、それに加えて転職組など、あらゆる立場の人たちが一緒だ。会社の上下関係だけでもとづいて接しては、仕事は動かない。それぞれの立場の人が、他の立場の人と、アイデンティティを「F」しながら関係を築いていかなければならない。現代人が生きる人間関係はより複雑になり、結果として、場面ごとに異なる複数のアイデンティティを生きる必要が発生したのだ。

*
メイナードは、ライトノベル、ケータイ小説、トーク番組、テレビドラマ、少女マンガの会話に使われていることばを分析して、これらのポピュラーカルチャーでは、話し手が複数のアイデンティティを表現している場合が多いことを示している。

たとえば、ライトノベルの『涼宮ハルヒの憂鬱』^{すずみや ゆうつ}では、ヒロインのハルヒは、同じ高校の男子キョンに、「だったら話しかけないで。時間の無駄だから」のように相手を拒否したり、命令したり、罵倒する発言をすることが多い。ところが、ときどきキョンに甘えた発言をする。(中略)「いいかしら？」と女ことばのステレオタイプな文末詞「かしら」まで使っている。作者も指摘しているように、いつもの「弁舌さわやかな面影もなく」キョンに甘えている。作者は、このように一見矛盾する言葉の使い方によって、ハルヒの「ツンデレ」なアイデンティティを表現

しているのだ。「ツンデレ」は、「ツンツン」と「デレデレ」という相反する複数の要素からなるアイデンティティだ。

複数のアイデンティティを持つことは、「仮面をかぶっている」とか「人をだましている」ということではなく、さまざまな人間関係の中で生きる私たちにとって、ごく当たり前になってきているのではないだろうか。

私たちは、人と関わり合うことで、その時々にはさまざまなアイデンティティを表現している。すると、「その時々」、つまり、だが、どういう状況で、いつ、だれと関わり合っているかを細かく調べるのが、とても重要になってくる。

そして、このように細かな分析が行われた結果、アイデンティティ自体にも異なる側面を区別できることが分かってきた。

ひとつは、年齢、ジェンダー、国籍や人種、社会階級のように、その社会全体で広く受け入れられているマクロなアイデンティティだ。 ……【⑦】

二つ目は、ある集団に特定のメソ（マクロとミクロの中間）のアイデンティティだ。たとえば、ある中学では、部活に所属している（部活生）と所属していない（帰宅生）が区別されているとすれば、（部活生）と（帰宅生）は、この中学という集団に限って使われるメソなアイデンティティとなる。

最後が、会話のやり取りの中の、ミクロなアイデンティティだ。どんな会話でも、話し手には、その場面に特有の役割がある。たとえば、生徒の発表を聞いて点数を付ける先生は、（評価者）というアイデンティティを「行っている」。また、冗談を言ってみんなを笑わせてくれる人には、しばしば（ムードメーカー）というアイデンティティが与えられる。 ……【⑧】

重要なのは、実際の会話では、これらの異なるアイデンティティの側面が同時に表現されるという点だ。同時に表現されることで、互いが混ざり合う。つまり、この三つの側面は、実際にははっきり区別することはできないのだ。

また、場面によっては、異なるアイデンティティの側面が強調される。たとえば、普段日本にいるときには、自分が日本人であることをそれほど意識することはない。ところが、海外に行って日本に関する質問に答えるときなど、日本人の代表になったように感じられ、（日本人）としてのアイデンティティを意識する。

……【⑨】

（中村桃子『「自分らしさ」と日本語』）

*メイナード：泉子・K・メイナード。言語学者。

〔問二〕 傍線部(1)～(3)のカタカナを漢字で書いたとき、後の①～④の傍線部に同じ漢字を含むものをそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) カク ① 話のカクシンをつく ② カクチヨウ高い文章 16

③ 勝利をカクシンした ④ 機能のカクチヨウを図る

(2) ゲンソウ ① ドクソウ性と模倣 ② アイデアをグゲンカしていく 17

③ ゲンカクを見た ④ ゲンカクな処分が下る

(3) コヨウ ① ココウの存在 ② 理不尽なカイコに抗議する 18

③ ザイコの管理 ④ ゆるやかなコを描く

〔問二〕 本文中の空欄「A」～「F」にあてはまるもっとも適切な言葉を、後の①～④の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

「A」 ① ぼくとつとした ② おおざっぱな ③ かたくるしい ④ おうへいな 19

「B」 ① すなわち ② もしくは ③ たとえば ④ ところで 20

「C」 ① 生物学的 ② 天文学的 ③ 文学的 ④ 日常的 21

「D」 ① 属性 ② 提案 ③ 結果 ④ 過程 22

「E」 ① 概念化 ② 様式化 ③ 細分化 ④ 言語化 23

「F」 ① 消費 ② 調整 ③ 削減 ④ 瓦解 24

〔問三〕

次の(1)・(2)の文は、本文中の【①】～【⑨】のいずれかの段落内から抜き出したものである。元に戻す段落としてもつとも適切な箇所をそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

- (1) へたをすると、「会社」が、その人のアイデンティティになる場合も多かった。

25

- (2) さらに、失恋した友だちから相談を受けるときには、〈聞き役〉というアイデンティティを引き受ける。

26

〔問四〕

本文で述べられている「構築主義」の説明を次のA～Hから選んだ組み合わせとして適切なものを後の①～⑥の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

27

- A 以前から存在しているアイデンティティにもとづいて私たちは人との関わり方を決めているという考え方。
 B 創作物(ドラマ・マンガ・ライトノベル等)におけるアイデンティティの特徴的な表現を指す言葉である。
 C 他者と関わり合う前の自分は空っぽなのではないかという問いを持ち、それを追究していく考え方。
 D 世界では、本来の自分をそのまま表現する「本質主義」が主流だが、日本人は「構築主義」の人が多い。
 E 日常的に関わり合う者、ペットなどの人間以外も含む存在との習慣的な表現の繰り返しで形成されると考える。
 F 自分らしさとは、状況に応じて柔軟に表し方を変えていくもので、ひとつに限る必要はないという考えも含まれる。
 G 他者とのコミュニケーションを通して、その影響を反映した言葉づかい等にあらわれるものを「自分らしさ」と捉える。
 H 性の場合では、従来の考え方で捉えて表現すると「本質主義」、近年の新しい考え方で捉えたと「構築主義」と区別する。

- | | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | A・B・D | ② | B・C・H | ③ | C・D・H |
| ④ | D・F・H | ⑤ | E・F・G | ⑥ | F・G・H |

〔問五〕

傍線部 a 「このような」が指す内容としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

28

- ① 「アイデンティティ」の定義が、扱う分野によって違い、理解にばらつきがある状態。
- ② 従来の研究では、現代社会の性別とことばの関係性について説明がつかないという問題点。
- ③ 〈女らしさ〉や〈男らしさ〉とことばとの間にどのような関係があるのかについての研究。
- ④ あらかじめ備わっている属性にもとづいて人はコミュニケーションをとるのだという「本質主義」。

〔問六〕

傍線部 b 「多様」とあるが、この同義語・対義語となる語句としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選び、その番号をマークしなさい。

29

- 「同義語」① プライオリティ ② イニシアチブ ③ マジORITYティ ④ ポテンシャル ⑤ ダイバーシティ
- 「対義語」① 矮小^{わいしょう} ② 特化 ③ 希少 ④ 画一 ⑤ 貴重

30

〔問七〕

傍線部 c 「後期近代」とあるが、ここに含まれる内容としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- ① 身分制度や職業に関する制限や圧力から解放され、自由と平等がある程度浸透してきた。
- ② 時代の変化によって制度・文化・人間関係・価値観がより細かく分かれ、個人で選択し確立していく状況である。
- ③ ネット環境が整備され、自分のアイデンティティを発信することが容易になったが、人の評価が気になる人が増加した。
- ④ 情報の入手がしやすい時代になり、勤務先や立場や互いの生活水準が把握されやすくなり、転職や退職がやりにくい。

〔問八〕

次の(1)～(4)について、本文と異なる内容が含まれている場合には、その箇所を①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。①～④のすべてが本文の内容と合う場合には「⑤」をマークしなさい。

(1) 現代人が生きる人間関係はより複雑になり、その時、その場面によって異なるアイデンティティを生きる必要がある。さまざまな人がいる社会の中では常に自分に正直でいることは難しく、仮面をかぶり、時には人をだますような場面もあるのが現実だ。つまり、自分のアイデンティティは一つではなく、複数のアイデンティティを表現し使い分けているのである。

32

(2) アイデンティティをより細かく分析していくと、マクロ、メソ、ミクロとが関係している。これらを厳密に区別することは難しいが、国籍や人種、社会階級や年齢、ジェンダーに関するものがマクロなものである。自己表現にもっとも大きく影響するのが、このマクロの要素である。

33

(3) アイデンティティとは、自分の中に確固として存在するものとして理解しがちだが、そうではない。現実には、その時の状況によりいくつもの異なる側面を持ち使い分けており、『本当の自分』など存在しない」という表現も可能である。また、「一人の人間がアイデンティティを複数持っている」「すべてが『本当の自分』である」とも言えるものである。

34

(4) いくつもの「自分らしさ」があるのは、装うことや偽るということとは違う。いくつものコミュニケーションで人間関係を構築して生きる私たちにとって、ごく当たり前になってきている。それが、ライトノベル、ケータイ小説、テレビドラマ、マンガの作品中でも相反する複数の要素からなる表現をもつ登場人物が存在することに影響を与えている。

35

国語 短大 一般選抜A日程 解答・配点

番号	正解	配点
1	3	2
2	3	2
3	2	2
4	1	2
5	2	2
6	1	2
7	3	2
8	2	2
9	1	2
10	3	2
11	1	3
12	2	3
13	3	3
14	3	3
15	4	3
16	1	3
17	3	3
18	2	3
19	4	3
20	3	3

50

番号	正解	配点
21	1	3
22	3	3
23	2	3
24	2	3
25	6	3
26	8	3
27	5	4
28	4	4
29	5	4
30	4	4
31	2	4
32	3	3
33	4	3
34	5	3
35	5	3
36		
37		
38		
39		
40		

計

50

一般選抜 A 日程
国語（短大）

第一問

- 〔問一〕 是々非々－公正な立場から、良いことは良い、悪いことは悪いと判断すること。 正解③
- 〔問二〕 水魚の交わり－親しく信頼しあう間柄のこと。 正解③
- 〔問三〕 思い半(なか)ばに過ぎる－考えてみると思い当たることが多く、十分に推察できること。 正解②
- 〔問四〕 立て板に水－すらすらと話すこと。 正解①
- 〔問五〕 語るに落ちる－話すべきではない事柄をうっかり言うてしまうこと。 正解②
- 〔問六〕 万物流転－この世のありとあらゆるものは、絶えず変化し続けるという考え。 正解①
- 〔問七〕 必定(ひつじょう)－一次に生じる事態が必ずそうなり、分かり切っていること。 正解③
- 〔問八〕 塞翁(さいおう)が馬－人生の幸不幸は予測できないものだというたとえ。 正解②
- 〔問九〕 妄想－根拠のないことをむやみに想像すること。 正解①
- 〔問十〕 リテラシー－ある分野に関する知識やそれを活用する能力のこと。 正解③

第二問

- 〔問一〕
- (1)「この件につきましては、すでにお聞き及びのことと存じますが、確認のためいま一度申し上げます。」自然な文であり、どこにも支障はない。 正解①
- (2)「次の連休は墓参りを兼ねて、祖母のところに伺うことにした。祖母の家は海を見下ろす高台にある。」「伺う」は謙譲語で、目上の人（敬意の対象）を訪ねる・尋ねる際に使う。したがって、会社の上司、先生、取引先など、「社会的に目上の人」に対して用いるのが、自分の身内（家族・親族）に対しては謙譲語・尊敬語を使わないのが原則。「祖母のところに行くことにした。」が自然。 正解②
- (3)「暑い日が続いております。先生におかれましては、どうぞお体をご自愛くださいませ。」「ご自愛ください」は「お体を大切にしてください」という意味をすでに含むため、「お体を」や「お体をご自愛」は誤用・重複敬語になる。「どうぞご自愛くださいませ。」のように使う。 正解②
- 〔問二〕 諮問 — 答申 正解③
- 〔問三〕 予算内に収める。 正解④
- 猛練習に堪える（→耐える） 保険を薦める（→勧める）
- 始めが肝心（→初め） 利益の追及（→追求）

第三問

〔問一〕

- | | | | | | |
|--------|-----|------|-----|-----|-----|
| (1) 核 | ①核心 | ②格調 | ③確信 | ④拡張 | 正解① |
| (2) 幻想 | ①独創 | ②具現化 | ③幻覚 | ④厳格 | 正解③ |
| (3) 雇用 | ①孤高 | ②解雇 | ③在庫 | ④弧 | 正解② |

〔問二〕

- [A] 「謙虚な人はていねいな言葉づかいをし、傲慢な人は [A] 言葉づかい」という部分は、対句のようになっている点もヒントとなっている。乱暴な言葉づかいとなるように「おうへいな」を選ぶ。正解④
- [B] 前後の段落の関係をつかむ。前の段落では「アイデンティティ」「本質主義」について述べている。後の段落では「アイデンティティのうちの」とあり、広い範囲の中で「ジェンダー」を例に説明している。「たとえば」を選ぶ。正解③
- [C] 「性別」と「ジェンダー」との語句の違いについて述べている部分、「性別とは [C] な性の違いを指し、ジェンダーは、社会文化的な女らしさや男らしさを指す」の空欄には、「社会文化的な女らしさ男らしさ」とは区別して「性別」を説明するのに適した「生物学的」を入れる。正解①
- [D] 直前に「つまり」があるので、その前の内容と同じ内容となるように語句を選ぶ。この前の段落で「アイデンティティをコミュニケーションの原因ではなく結果ととらえる考え方である」「あらかじめ備わっている～のではなく」とある部分をふまえて「結果」を選ぶ。正解③
- [E] 「私たちは、日常生活で関わる人に対して、かなり長い期間、繰り返し、同じような自分を表現していることになる。そして、それが『自分らしさ』を形成していると感じるようになる」「くりかえされる一連の行為であって、その行為は、長い年月のあいだに凝固して、実体とか自然な存在 という見せかけを生み出していく」「身近な人との関わり合いの中で、長い間繰り返し表現していくことで、『自分の女らしさ、あるいは、男らしさはこんな感じ』という感覚が確立していく」という内容に着目し、これらを説明するのに適した「様式化」を選ぶ。正解②
- [F] 以前であれば、「一度就職すれば、退職するまで同じ会社で働く」状態だったのが、現在は「転職する人もいる。同じ会社で働く人も、正社員から派遣社員、嘱託やアルバイト、それに加えて転職組など、あらゆる立場の人たちが一緒」とある。その状況の変化をふまえて、「アイデンティティを [調整] しながら関係を築いていかなければならない」とすれば文脈と合う。正解②

〔問三〕

- (1) 「へたをすると、『会社』が、その人のアイデンティティになる場合も多かった」が入る段落を探す。「一度就職すれば、退職するまで同じ会社で働く。自分のアイデンティティは、昇進などで変わるぐらいで、基本的には、会社の限られた人間関係にもとづいていた」とある⑥の位置が適切。

正解⑥

- (2) 「さらに、失恋した友だちから相談を受けるときには、〈聞き役〉というアイデンティティを引き受ける」を元の段落に戻す。「さらに」とあるので、この前にも(持って生まれた属性ではなく)、その場での人間関係によって生まれる役割の話があることが予測でき、⑧に絞れる。 正解⑧

〔問四〕「構築主義」の説明として合うものを選ぶ。5 ページで述べられている「本質主義」と区別し、6 ページ以降の内容と照らし合わせていくとあてはまるのは、E・F・G。 正解⑤

〔問五〕傍線部 a の「このような」が指しているのは、直前部分のみではない。「このような考え方では説明のつかないことがたくさん出てきてしまった」、この段落の後半の「もし、私たちが、すでにあるアイデンティティにもとづいて人との関わり方を決めているのだとしたら、～言葉づかいが多様に変化することを説明できない」という部分がある。「このような考えでは説明がつかない」ので、「構築主義」という考えが生まれた、という本文全体の大きな流れをつかむ。ここまでの段落で例も交えて説明してきた「本質主義」を指していることから適切なものを選ぶ。 正解④

〔問六〕「多様」に適する

同義語 「ダイバーシティ (多様性)」

正解⑤

対義語 「画一」

正解④

・他の同義語

プライオリティ - 優先順位 イニシアチブ - 主導権 マジョリティー - 多数派
ポテンシャル - 潜在能力

・他の対義語 (反対語)

矮小 - 巨大

特化 - 汎用・一般化 (対義的概念：辞書などに対義語としての明示なし)

希少 - 豊富・多数・普通 (希少性⇔普遍性)

貴重 - 無価値・くだらない・つまらない

〔問七〕傍線部「後期近代」について、本文7～8 ページの内容を「以前」と「後期近代」とに分けて整理していく。後期近代が、「複数のアイデンティティを表現する」ようになっている点も踏まえる。 正解②

〔問八〕

- (1) ①②の内容は、「後期近代」の部分で説明されていた。③は「常に自分に正直でいることは難しく、仮面をかぶり、時には人をだますような場面もあるのが現実だ」の部分が本文とは合わない。「複数のアイデンティティ」の中で相反する部分もあるという例では「ツンデレ」があったが、これはどちらも自分の一部として述べられている。また、8 ページに「複数のアイデンティティを持つことは、『仮面をかぶっている』とか『人をだましている』ということではなく」と述べられている。 正解③

- (2) ①②③は8ページの内容にある。本文には「重要なのは、実際の会話では、これらの異なるアイデンティティの側面が同時に表現されるという点だ。同時に表現されることで、互いが混ざり合う。つまり、この三つの側面は、実際にははっきり区別することはできないのだ。また、場面によっては、異なるアイデンティティの側面が強調される」とあるので、④にあるような「マクロの要素」だと限定することはできない。 正解④
- (3) ①は本文の前半5～6ページの内容、②は6～7ページの「構築主義」の説明部分、③は7ページ5～8行目、④は7ページ後半～8ページの内容とそれぞれ合っている。 正解⑤
- (4) ①は本文中の7ページ後半の「ツンデレ」の例や8ページの2行目で述べている。②は7ページの内容、③は7ページの後ろから6行目、④は8ページの3行目、とそれぞれ本文の内容と合っている。 正解⑤